文書質問

令和３年４月１日に施行された下川町議会基本条例により、議員は、通年議会を活用し、休会中（定例会議を開催しない月）においても主体的かつ機動的な議員活動に資するため、町政に関して、町長等に対し文書により質問を行うことができるようになりました。

７月（８月は質問休止月としています）は４名の議員から計７問の質問の提出がありました。

今号では、７月に提出した質問と回答の一部を掲載します。全ての質問と回答については、町のホームページへアクセスするか、次のＱＲコードを読み取ると見ることができます。

文書質問は
こちらから

文書質問

令和４年７月　文書質問及び回答

１　質 問 者　春日　隆司　議員

２　質問事項　総計見直しにおける政策評価について

質問の内容・要旨	回　　答
去る７月５日から７日、脱炭素推進調査特別委員会として、議員研修に合わせ、ニセコ町、当別町、三笠市における脱炭素に関する取組みなどについて調査を実施してきました。 三市町ともに、下川町の循環型社会づくりの森林・バイオマスの取組について、「北海道一である、うちの町は20～30年遅れている、１歩も２歩も先を行っている。」など、外交辞令とはいえ、極めて高い評価をされていました。 こうした中、下川町の現状と実態を見た時、このような評価と実態には、相当な乖離があると思います。一例として、50㌶×60年の循環型森林経営の現状、木質バイオマスボイラーから化石燃料ボイラーへの転換、木質バイオマスボイラーの故障による長期化石燃料使用、熱効率（熱ロス）の問題、再生エネの取組遅延、脱炭素社会への行動など。 また、ゼロカーボン宣言にあっては、ニセコ町Ｒ２年７月、当別町Ｒ３年３月、三笠市Ｒ３年12月に行い、各市町では脱炭素に向けて、強力なリーダーシップのもとで、具体的な取組みが進展しており、学ぶべき事例でもありました。 こうした調査を踏まえ、外の評価と現在の下川町の実態は、ウサギと亀ではないが、先進市町からは相当な遅れを取ってしまったと考えるのは、私だけではないと思います。このことは、下川町の取組みなどを熟知している二セコ町民の方からこの度の「下川町の復活の雄姿を見たいと望んでいる」との声掛けでも明らかであります。 そこで、総計の見直しにあたり、先行していた取組みがなぜ進展しないのか、原因は何なのか、何をなさねばならないかなど、次世代へつながる持続可能な（ＳＤＧｓ）地域づくりのため、事業評価に加え、政策評価と検証をすることが、執行者の責務であると考えますが、いかがでしょうか。	本町では、これまで地域資源を活用しながら、経済・社会・環境の３側面の統合的な取り組みにより持続可能なまちづくりを進めてきたことで、各方面から高い評価をいただいてきたと認識しております。 その一方で、人口減少を起因とする地域課題は山積しており、それらを解決しながら、先人が創り上げてきた町の基盤を的確に未来世代に引き継ぐことが執行者としての私の使命であると考えているところです。 地域課題の解決のため、毎年度実施しております行政評価意見や議会の提言、監査意見などを踏まえた総合計画の見直し方針を示すとともに、各種指標や今年度予定しております総合計画アンケート調査結果などにより政策検証を行いながら中期計画の策定に反映させてまいります。 いずれにしましても、第６期下川町総合計画の将来像であります「2030年における下川町のありたい姿」の実現に向けて、地域課題の解決に向けて汗をかいてまいります。